

**Microsoft System Center 2012 Virtual
Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller
Integration バージョン 1.1
ユーザーズガイド**



メモ、注意、警告

-  **メモ:** メモでは、コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** 注意では、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 警告では、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2009 - 2015 Dell Inc. 無断転載を禁じます禁じます。 この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、および Dell のロゴは、米国および / またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2015 - 08

Rev. A00

目次

1 Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration について.....	6
新機能.....	6
既存機能.....	7
2 DLCI コンソールアドインのインストールとセットアップ	9
DLCI コンソールアドインのインストール.....	9
DLCI コンソールアドインの削除または修復.....	10
VMM への DLCI コンソールアドインのインポート.....	10
DLCI コンソールアドインの表示.....	10
DLCI コンソールアドインのアンインストール.....	10
3 はじめに.....	11
DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM へのログイン	11
DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM.....	11
SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインへのログイン.....	13
SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン	13
4 ワークフロー.....	15
ゴールデン設定について.....	15
ゴールデン設定の作成.....	15
資格情報プロファイルの作成、管理、および削除.....	15
アップデートソースの作成、管理、および削除.....	16
サーバーまたはサーバーグループ上でのアップデートの適用.....	16
ハイパーバイザー導入.....	16
サーバーの削除.....	17
5 ハイパーバイザー導入のための環境のセットアップ.....	18
6 サーバー検出.....	19
管理対象システムのシステム要件	20
管理対象システムでの CSIOR の有効化.....	20
自動検出を使用したサーバーの検出.....	20
手動検出を使用したサーバーの検出.....	21
DLCI コンソールからのサーバーの削除.....	21
デバイスインベントリの表示.....	22
SC2012 VMM との同期化.....	22
SC2012 VMM 用 DLCI との同期.....	23

同期化エラーの解決.....	23
iDRAC コンソールの起動.....	24
7 アプライアンスのライセンス	25
8 アップデート管理.....	26
アップデートソース.....	27
事前定義されたアップデートソース.....	27
アップデートグループ.....	27
アップデートグループについてのメモ.....	29
アップデートソースの表示.....	29
ローカル FTP のセットアップ.....	29
アップデートソースの作成.....	30
アップデートソースの変更.....	30
アップデートソースの削除.....	30
アップデートグループの表示.....	31
サーバー上でのアップデートの適用.....	31
ファームウェア インベントリの表示と更新.....	32
インベントリのエクスポート.....	33
ジョブの管理.....	33
ファームウェアアップデートジョブのキャンセル.....	33
9 プロファイルとテンプレート.....	34
資格情報プロファイルについて.....	34
事前定義された資格情報プロファイル.....	34
資格情報プロファイルの作成.....	35
資格情報プロファイルの変更.....	35
資格情報プロファイルの削除.....	35
ハードウェアプロファイルの作成.....	36
ハードウェア構成プロファイルの変更.....	37
ハードウェアプロファイルの削除.....	37
ハイパーバイザープロファイルの作成.....	37
ハイパーバイザープロファイルの変更.....	38
ハイパーバイザープロファイルの削除.....	38
WinPE のアップデート.....	38
導入について.....	39
導入テンプレートの作成.....	39
導入テンプレートの変更.....	40
導入テンプレートの削除.....	40
10 ハイパーバイザーの導入.....	41

11 アプライアンスでの情報の表示.....	42
ジョブステータスの表示.....	42
管理対象ジョブの表示.....	42
アクティビティログの表示.....	42
アプライアンスログの表示.....	42
12 トラブルシューティング.....	43
SC2012 VMM でのアカウント削除.....	43
比較レポートが Update Center に表示されない.....	43
空のクラスタアップデートグループが自動検出または同期化中に削除されない.....	43
検出ジョブが送信されない.....	43
重複した VRTX シャーシグループが作成される.....	43
満杯のジョブキューによるファームウェアアップデートの失敗.....	44
システムデフォルトアップデートソースを使用した FTP への接続の失敗.....	44
ファームウェアアップデート中におけるリポジトリの作成の失敗.....	44
ハイパーバイザー導入の失敗.....	45
ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルを起因とするハイパーバイザー導入の失敗.....	45
ファームウェアアップデート後も最新のインベントリ情報が表示されない.....	46
Active Directory へのサーバー追加中の SC2012 VMM エラー 21119.....	46
アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失.....	46
Active Directory 使用時の第 11 世代 PowerEdge ブレードサーバーに対するハイパーバイザー導入の失敗.....	47
RAID10 での仮想ディスクの RAID 設定失敗.....	47
一部のコンポーネントで選択とは無関係にファームウェアアップデートが行われる.....	47
ソフトウェア RAID S130 でのホットスペアの設定に起因する RAID の設定障害.....	47
13 デルサポートサイトからの文書へのアクセス.....	48

Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration について


Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) は、ハードウェアの設定を可能にし、ファームウェアアップデートプロセスをシンプル化かつ改善するためのソリューション、およびデルサーバーでハイパーバイザーを導入するためのソリューションを提供します。このプラグインは、Dell Remote Access Controller (iDRAC) with Lifecycle Controller (LC) のリモート導入機能を使用してシームレスなユーザー体験を実現し、仮想環境を管理するために Microsoft System Center コンソール経由でデルの付加価値を活用することができます。

Microsoft System Center Virtual Machine Manager についての情報は、Microsoft の文書を参照してください。

新機能

本リリースの機能は次のとおりです。

- シンプル化されたライセンス付与 - ライセンスを管理するために Dell Connections License Manager (DCLM) は必要ありません。ライセンス付与に関する詳細情報は、Admin portal (管理ポータル) の **License Center** (ライセンスセンター) で入手できます。
- 新しい資格情報プロファイルタイプ：
 - デバイス資格情報プロファイル - integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) または Chassis Management Controller (CMC) へのログインに使用します。
 - Windows 資格情報プロファイル - Windows 共有にアクセスするために使用します。
 - FTP 資格情報プロファイル - FTP サイトにアクセスするために使用します。
 - プロキシサーバー資格情報 - プロキシ資格情報を提供するために使用します。
- 検出 - ホストがクラスタの一部である場合はクラスタの詳細情報と共に、ホストがモジュラーサーバーの場合はシャーシの詳細情報と共にサーバーを検出します。
- SCVMM との同期 - SCVMM 環境内にリストされているすべての Dell ホストシステムを SC2012 VMM 用 DLCI と同期します (ホストは SCVMM によって管理されている Hyper-V ホストです)。
 - 同期エラーの解決 - 前の試行時に同期されなかったホストサーバーを再同期します。
- アップデート管理 - SCVMM 環境内の Dell サーバーを管理し、最新のファームウェアとその他アップデートに基づいたデルの推奨に従ってサーバーを最新の状態に保ちます。このリリースでは、第 11 世代から第 13 世代までの Dell PowerEdge サーバーのアップデート管理をサポートしています。
 - アップデート管理の主な機能は次のとおりです。
 - * 比較レポートの表示 - アップデートソースから重要度で比較レポートを表示し、ベースラインバージョンを作成します。重要度は、アップデートがどの程度重要であることを示します。
 - * ファームウェアインベントリの更新とエクスポート - ファームウェアインベントリを更新し、インベントリの詳細情報を xml 形式でエクスポートします。

- * アップデートの適用 - ファームウェアアップデートをただちに適用、またはアップデートをスケジュールします。
 - * 特定のアップデートの適用 - 特定のコンポーネントアップデートのみを適用、または Dell FTP で使用可能な最新のアップデートを適用します。
 - * オペレーティングシステム導入前のアップデートの適用 - オペレーティングシステムの導入前に、選択したアップデートソースを使用してファームウェアアップデートを適用します。
- 次に対する最新のファームウェアバージョンについてサーバーをリモートでアップデートします (1対1または1対多)。
- * 基本入出力システム (BIOS)
 - * ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) または LAN on Motherboard (LOM)
 - * 第 12 世代 PowerEdge サーバー以降からの電源装置ユニット (PSU)
 - * PowerEdge RAID コントローラ (PERC) またはシリアルアタッチド SCSI (SAS)
 - * バックプレーン
 - * iDRAC with LC (モジュラーおよびモノリシック)
-  **メモ:** 使用可能なコンポーネントは Dell サーバーの下にリストされます。
- アップデートグループ - 検出されたサーバーは、すべて適切な事前定義されたアップデートグループに追加されます。
 - アップデートソース - Dell Repository Manager (DRM) を使用して、または FTP サイトに接続することによってリポジトリを作成します。
 - DRM との統合 - SC2012 VMM 用 DLCI からシステムインベントリ情報を DRM にエクスポートし、DRM を使用してリポジトリを準備します。
 - FTP - Dell FTP (ローカルまたはオンライン) に接続し、最新の Dell オンラインカタログを取得します。

既存機能

SC2012 VMM 用 DLCI では、次の機能を引き続き利用することができます。

- 未割り当ての Dell サーバーの自動検出 - 工場から出荷された Dell サーバーをネットワークに接続し、サーバーの電源を投入してからプロビジョニングサーバーの詳細を入力することによって、サーバーを自動的に検出されます。

アプライアンスによって検出されたサーバーは、未割り当てサーバーとして認識され、これらのサーバーにハイパーバイザーの導入を行うことができます。

- 未割り当て Dell サーバーの手動検出 - 第 11、12、および 13 世代の PowerEdge サーバーを検出し、仮想環境にサーバーを導入します。
- 検出されたサーバーのインベントリの表示 - Dell サーバーに関する重要なインベントリ詳細が表示されます。
- サーバーコンプライアンスのチェック - Dell サーバーが対応していることを確認します。

Dell サーバーのコンプライアンス - アプライアンスで使用可能な機能を使用するには、必要なファームウェアバージョンの iDRAC、LC、および基本入出力システム (BIOS) が Dell サーバーに搭載されている必要があります。バージョン番号の詳細については、『DLCI for SC2012 VMM Release Notes』(SC2012 VMM 用 DLCI リリースノート) を参照してください。

- ゴールデン設定とも呼ばれる理想的なサーバー設定の準備 - 仮想環境に導入されるサーバーにこの設定を複製します。さらに、次の操作も実行できます。
 - 起動順序と BIOS に対するゴールデン設定を編集および変更します。
 - Redundant Array of Independent Disks (RAID) の専用ホットスペア (DHS) 戦略をカスタマイズします。
- プロファイルとテンプレートを作成および維持します。
- Microsoft Windows プレイインストール環境 (WinPE) のカスタマイズ - 最新の Dell OpenManage Deployment Toolkit (DTK) ドライバで、カスタマイズされた WinPE イメージを準備します。
- 工場から出荷された最新ドライバパック同梱の最新サーバーにおいて、LC ドライバインジェクション機能を活用します。

LC のドライバインジェクション機能を使用した、または使用しないハイパーバイザーの導入 - アプライアンスから、ゴールデン設定に基づいたハイパーバイザーの導入を行います。

- DLCI コンソールから iDRAC コンソールを起動してインベントリ情報を表示し、トラブルシューティングを行います。
- ジョブの情報の表示 - アプライアンスで実行されたさまざまなジョブに関して記録された情報を表示します。

DLCI コンソールアドインのインストールとセットアップ

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインのインストールおよびセットアップには、次の作業が含まれます。

- システム要件を確認および完了し、**SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン** をインストールします。詳細については、「[DLCI コンソールアドインのインストール](#)」を参照してください。
- DLCI コンソールを VMM コンソールにインポートします。詳細については、「[VMM コンソールへの DLCI コンソールのインポート](#)」を参照してください。
- VMM コンソールで DLCI コンソールを表示します。詳細については、「[DLCI コンソールの表示](#)」を参照してください。
- DLCI コンソールをアンインストールします。詳細については、「[DLCI コンソールのアンインストール](#)」を参照してください。

DLCI コンソールアドインのインストール

アプライアンスでの作業を開始する前に、SC2012 VMM コンソールがインストールされているシステムに DLCI コンソールをインストールする必要があります。DLCI コンソールをインストールしたら、DLCI コンソールを SC2012 VMM コンソールにインポートすることができます。

前提条件： SC2012 VMM SP1 または SC2012 VMM R2 コンソールがインストールされていること。

DLCI コンソールをセットアップと設定から初めてインストールする場合は、手順 3 から開始します。それ以外の場合は、手順 1 から開始します。

DLCI コンソールをインストールするには、次の手順を実行します。

1. **DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM** で、**ダウンロード** をクリックします。
2. **DLCI Console Add-in for SC2012 VMM Installer** (SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインインストーラ) から、**Download Installer** (インストーラをダウンロード) をクリックしてこの場所にファイルを保存します。
3. インストーラファイルを実行します。
4. **DLCI Console Add-in for SC2012 VMM** (SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン) のようこそページで **Next** (次へ) をクリックします。
5. **License Agreement** (ライセンス契約) ページで、**I accept the terms in the license agreement** (ライセンス契約の条件に同意します) を選択してから、**Next** (次へ) をクリックします。
6. **Destination Folder** (宛先フォルダ) ウィンドウでは、デフォルトのインストール先フォルダが選択されています。**Change** (変更) をクリックし、変更を完了して **Next** (次へ) をクリックします。
7. **Ready to Install the Program** (インストールの準備完了) ページで、**Install** (インストール) をクリックします。

8. **InstallShield Wizard Completed** (InstallShield ウィザードを完了しました) ページが表示されたら、**Finish** (終了) をクリックします。

DLCI コンソールアドインの削除または修復

DLCI コンソールアドインを削除または修復するには、次の手順を実行してください。

1. **SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン** インストーラを実行します。
2. **Program Maintenance** (プログラムメンテナンス) で、**Remove** (削除) または **Repair** (修復) を選択して **Next** (次へ) をクリックします。
3. プログラムの**修復または削除の準備完了** で、**インストール** をクリックします。
4. 削除または修復作業が完了したら、**完了** をクリックします。

VMM への DLCI コンソールアドインのインポート

DLCI アプライアンスで作業するには、DLCI コンソールを VMM コンソールにインポートする必要があります。


前提条件: アプライアンスとの接続を機能させるには、ウェブブラウザでプロキシ設定をクリアします。ただし、ウェブブラウザのプロキシが設定済みの場合は、プロキシ例外リストにアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を含めます。

VMM コンソールに DLCI コンソールをインポートするには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM から **Settings** (設定) をクリックします。
2. ホーム リボンで、**コンソールのアドインをインポート** をクリックします。
3. **Import Console Add-in Wizard** (コンソールのアドインのインポート ウィザード) → **Select an add-in to import** (インポートするアドインの選択) をクリックし、SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン (**DLCI_VMM_Console_Addin.zip**) を参照して選択してから、**Next** (次へ) をクリックします。
4. **設定の確認** で必要な設定が行われていることを確認してから、**終了** をクリックします。
DLCI コンソールが VMM コンソールにインポートされ、**VM およびサービス** → **すべてのホスト** で利用できるようになりました。

DLCI コンソールアドインの表示

SC2012 VMM で DLCI コンソールを表示するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM コンソールで **ファブリック** を選択してから、**すべてのホストグループ** を選択します。
 **メモ:** DLCI コンソールの起動には、アクセス権がある任意のグループを選択することができます。
2. ホーム リボンで **DLCI コンソール** を選択します。

DLCI コンソールアドインのアンインストール

DLCI コンソールをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM で、**設定** をクリックします。
2. **Settings** (設定) → **Console Add-ins** (コンソールアドイン) をクリックし、**DLCI Console Add-in for SC2012 VMM** (SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン) を選択します。
3. ホーム で **削除** をクリックします。

はじめに

管理システムは、アプライアンスとも呼ばれる SC2012 VMM 用 DLCI とそのコンポーネントがインストールされているシステムです。アプライアンスのコンポーネントは次のとおりです。

- SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイと呼ばれる、Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) 統合ゲートウェイ。
- SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインと呼ばれる、Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) コンソールアドイン。

DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM へのログイン

DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM にログインするには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスで、DLCI 管理者ポータル - SC2012 VMM の URL をメモします。
2. ウェブブラウザで、URL : <https://<IP Address>> または <FQDN> に移動します。例 : 192.168.20.30 または DLCIforSC2012vmm.myorgdomain.com。
3. アプライアンスの設定時に入力したユーザー資格情報を使用して DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM にログインします。

DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM

DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM のユーザーインターフェースには、次のオプションがあります。

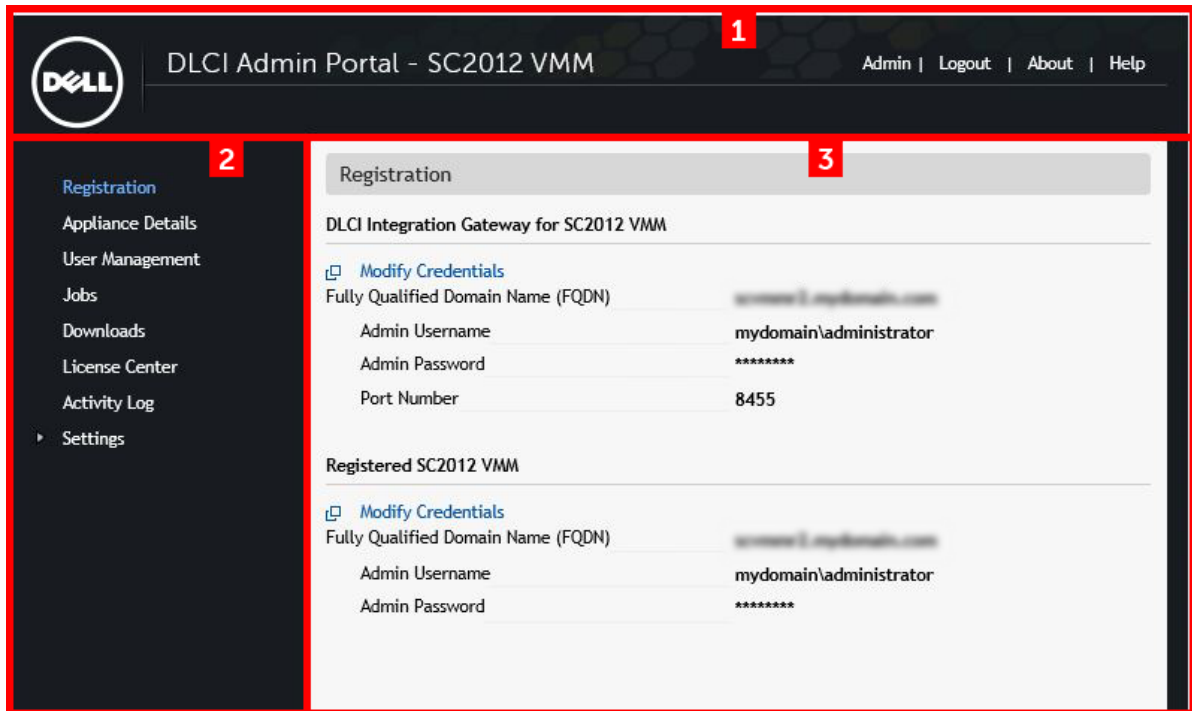


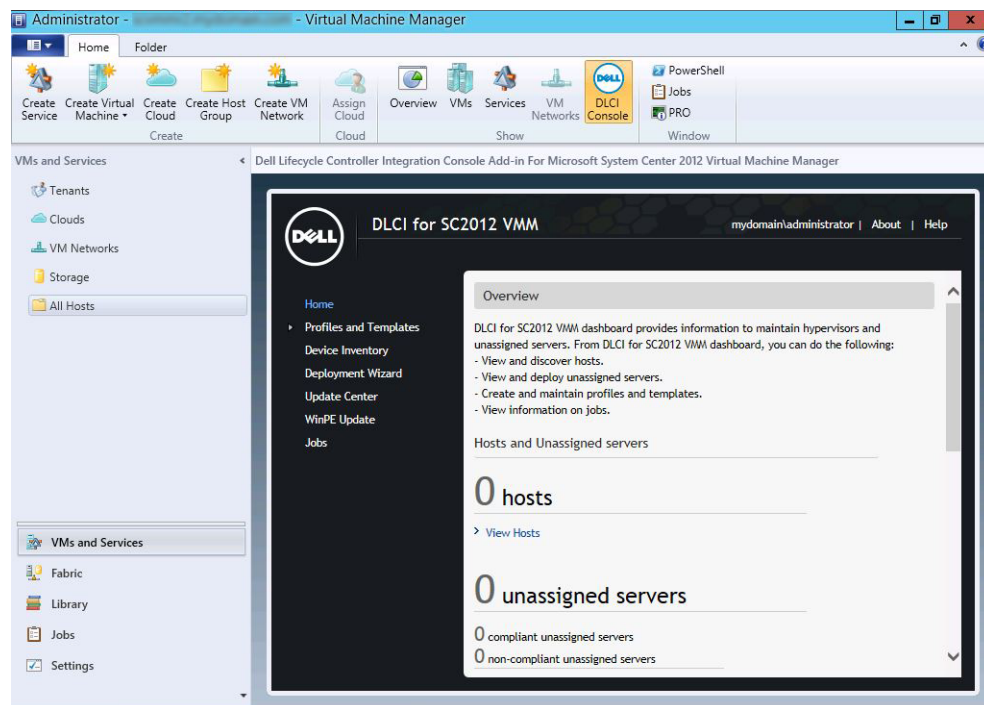
図 1. DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM

1. 見出しバナーには、製品名および次のオプションが表示されます。
 - **Admin** (管理) - SC2012 VMM 用 DLCI - 管理ポータルにログインしているユーザーの情報が表示されます。
 - **Logout** (ログアウト) - SC2012 VMM 用 DLCI 管理ポータルからログアウトできます。
 - **About** (バージョン情報) - SC2012 VMM 用 DLCI のバージョン情報が表示されます。
 - **ヘルプ** - 状況依存オンラインヘルプを起動します。
2. ナビゲーションペインには、次のオプションが含まれています。各オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - 登録
 - アプライアンス詳細
 - ユーザー管理
 - ジョブ
 - **Downloads** (ダウンロード)
 - ライセンスセンター
 - アクティビティログ
 - 設定
 - サービスパックアップデート
 - ログ
3. コンソールエリアには、ナビゲーションペインで選択したオプションの情報が表示されます。

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインへのログイン

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインにログインするには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM で、**ファブリック** を選択し、**すべてのホスト** を選択します。
2. **ホーム** リボンで **DLCI コンソール** を選択します。



SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン

DLCI コンソールアドインのユーザーインターフェースには次のオプションがあります。



図 2. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン

- 見出しバナーには、製品名および次のオプションが表示されます。
 - **<Domain>\adminstrator** - SC2012 VMM 用 DLCI にログインしているユーザーに関する情報が表示されます。
 - **About** (バージョン情報) - SC2012 VMM 用 DLCI のバージョン情報が表示されます。
 - **ヘルプ** - 状況依存オンラインヘルプを起動します。
- ナビゲーションペインには、次のオプションがあります。
 - **ホーム** - SC2012 VMM 用 DLCI のダッシュボードが表示されます。
 - **プロフィールとテンプレート**
 - 展開テンプレート
 - ハードウェアプロファイル
 - ハイパーバイザープロファイル
 - 資格情報プロファイル
 - **デバイスインベントリ**
 - **導入ウィザード**
 - **Update Center**
 - **WinPE のアップデート**
 - **ジョブ**
- コンソールエリアには、ナビゲーションペインで選択したオプションの情報が表示されます。
 - **メモ:** SC2012 VMM 用 DLCI コンソールでは、たとえばハードウェアプロファイルのウィザードを使用している間に SC2012 VMM コンソール内の他のタブまたはリンクに移動して、再度 SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインを表示させた場合、移動前に入力した情報は保存されず、DLCI コンソールにはホームページが表示されます。

ワークフロー

本項には、以下の操作のためのワークフローが記載されています。

- [ゴールデン設定の作成](#)
- [資格情報プロファイルの作成と管理](#)
- [アップデートソースの作成と管理](#)
- [サーバーまたはサーバーグループ上でのアップデートの適用](#)
- [ハイパーバイザー導入](#)
- [サーバーの削除](#)

ゴールデン設定について

組織に理想的に適合した優先起動順序、BIOS および RAID 設定で設定されているサーバーは、ゴールデン設定と呼ばれます。これらの設定はハードウェアプロファイルに集められ、ハイパーバイザー導入中に同一のサーバー上に導入されます。

ゴールデン設定の作成

ゴールデン設定を準備し、使用するには、次の手順を実行します。

1. 理想的な設定が行われたサーバーが検出済みで、使用可能であることを確認します。サーバー検出の詳細については、要件に応じて「[自動検出を使用したサーバーの検出](#)」または「[手動検出を使用したサーバーの検出](#)」を参照してください。
2. サーバーのインベントリが最新の状態であることを確認します。詳細については、「[ファームウェアインベントリの表示と更新](#)」を参照してください。
3. 理想的な設定を記録するには、ハードウェアプロファイルを作成する必要があります。ハードウェアプロファイルを作成するには、「[ハードウェアプロファイルの作成](#)」を参照してください。
4. 設定を変更する場合は、「[ハードウェア構成プロファイルの変更](#)」を参照してください。

資格情報プロファイルの作成、管理、および削除

資格情報プロファイルを作成するには、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。

資格情報プロファイルを管理するには、「[資格情報プロファイルの変更](#)」を参照してください。

資格情報プロファイルを削除するには、「[資格情報プロファイルの削除](#)」を参照してください。

アップデートソースの作成、管理、および削除

アップデートソースを作成するには、「[アップデートソースの作成](#)」を参照してください。

アップデートソースを管理するには、「[アップデートソースの変更](#)」を参照してください。

アップデートソースを削除するには、「[アップデートソースの削除](#)」を参照してください。

サーバーまたはサーバーグループ上でのアップデートの適用

次のソースを使用して、選択したサーバーまたはサーバーグループをアップデートできます。

- ローカル FTP およびオンライン FTP ソース
- ローカル DRM リポジトリ

選択したサーバーまたはサーバーグループ上でアップデートを適用するには、次の手順を実行します。

1. アップデートを開始する前に、アップデートソースとアップデートグループに関する情報を表示します。詳細については、「[アップデート管理](#)」を参照してください。
2. サーバーを検出します。詳細については、「[自動検出を使用したサーバーの検出](#)」、または「[手動検出を使用したサーバーの検出](#)」を参照してください。
3. SCVMM 環境内に存在するサーバーを SC2012 VMM 用 DLCI と同期します。同期化の詳細については、「[SCVMM との同期化](#)」を参照してください。
4. サーバーのインベントリが最新の状態であることを確認します。詳細については、「[デバイスインベントリの表示](#)」を参照してください。
5. アップデートソースが作成されていることを確認します。詳細については、「[アップデートソースの作成](#)」を参照してください。
6. アップデートを適用するために必要なサーバーグループが選択されていることを確認します。詳細については、「[サーバー上でのアップデートの適用](#)」を参照してください。

ハイパーバイザー導入

アプライアンスを使用して、ファームウェアアップデートおよびハイパーバイザー導入をゴールドデン設定に基づいて実行できます。最新のドライバパックと共に工場から出荷されたサーバーに対しては、LC ドライバインジェクション機能を利用できます。また、ドライバパックをアップデートし、ハイパーバイザー導入およびファームウェアアップデート時における最新ドライバのインストールと同様の効果を得ることができます。

表 1. : ハイパーバイザー導入のためのさまざまなシナリオ

工場出荷時の最新のドライバおよび帯域外ドライバが必要な場合	ハイパーバイザープロファイルの作成中に、LC (Lifecycle Controller) ドライバの挿入を有効にします。
既存のハードウェア構成を保持する場合	導入テンプレートの作成中に、ハイパーバイザープロファイルのみを選択します。

ハイパーバイザー導入の作業には、次を参照してください。

1. [導入について](#)
2. [資格情報プロファイルの作成](#)

3. [ハードウェアプロファイルの作成](#)
4. [ハイパーバイザープロファイルの作成](#)
5. [導入テンプレートの作成](#)
6. (オプション) [サーバー上でのアップデートの適用](#)
7. [ハイパーバイザーの導入](#)

サーバーの削除

アプライアンスでサーバーを削除する方法については、「[DLCI コンソールからのサーバーの削除](#)」を参照してください。

ハイパーバイザー導入のための環境のセットアップ

ハイパーバイザー導入のための環境をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. [ゴールデン設定](#)を準備します。
2. 物理コンピュータプロファイルを SC2012 VMM に作成します。詳細については、SC2012 VMM のマニュアルを参照してください。
3. ターゲットホストグループを SC2012 VMM に作成します。詳細については、SC2012 VMM のマニュアルを参照してください。
4. 最新の Dell Deployment ToolKit (DTK) をダウンロードして Windows Preinstallation Environment (WinPE) ブート ISO イメージを作成します。詳細については、「[WinPE アップデート](#)」を参照してください。
5. 自動検出のためにシステムをセットアップします。詳細については、「[自動検出を使用したサーバーの検出](#)」を参照してください。
6. アップデートソースを作成します。詳細については、「[アップデートソースの作成](#)」を参照してください。
7. (オプション) ハードウェアプロファイルを作成します。詳細については、「[ハードウェアプロファイルの作成](#)」を参照してください。
8. ハイパーバイザープロファイルを作成します。詳細については、「[ハイパーバイザープロファイルの作成](#)」を参照してください。
9. 導入テンプレートを作成します。詳細については、「[導入テンプレートの作成](#)」を参照してください。
10. システムが検出され、アプライアンス内で使用可能になった後、ファームウェアアップデートを実行 (オプション) してから、ハイパーバイザー導入を実行します。アップデートの適用についての詳細は、「[サーバー上でのアップデートの適用](#)」を参照してください。ハイパーバイザーの導入についての詳細は、「[ハイパーバイザーの導入](#)」を参照してください。
11. ファームウェアアップデートと導入のジョブステータスを表示します。詳細については、「[ジョブステータスの表示](#)」を参照してください。

サーバー検出

未割り当ての Dell サーバーの帯域外検出を実行し、Dell サーバーに関する情報をアプライアンスにインポートできます。サーバーを検出するために、Dell サーバーをネットワークに接続し、サーバーの電源を入れ、iDRAC にログインし、プロビジョニングサーバーの IP を DLCI アプライアンスの IP に更新し、DLCI アプライアンスの管理者アカウントを無効にして、サーバーを自動的に検出します。サーバーの設定方法の詳細については、*Integrated Dell Remote Access Controller* のマニュアルを参照してください。

未割り当ての Dell サーバーは、次のオプションを使用して検出することもできます。

- 未割り当てサーバーの[自動検出](#)。
- IP アドレスに基づいた[手動検出](#)。

未割り当てサーバーと一緒に Hyper-V ホスト、モジュラー Hyper-V ホストを検出することができます。検出後、それらのサーバーは事前定義された対応するアップデートグループに追加されます。グループの分類の詳細については、「[アップデート管理](#)」を参照してください。

サーバー検出についてのメモ：

- オペレーティングシステムが導入済みで、SCVMM に存在する Dell PowerEdge サーバーを検出した場合、そのサーバーはホストサーバーとしてリストされ、準拠または非準拠のマークが付けられます。
 - アプライアンスと連携するために必要な最低限のバージョンの LC ファームウェア、iDRAC、および BIOS が搭載されている場合、そのホストサーバーは準拠になります。
 - ホストがモジュラーサーバーの場合、そのサーバーが収容されているシャーシのシャーシサービスタグが表示されます。ホストがクラスタの一部の場合、クラスタの完全修飾ドメイン名 (FQDN) が表示されます。
- SCVMM 荷リストされていない Dell PowerEdge サーバーを検出した場合、そのサーバーは未割り当てサーバーとしてリストされ、適合または非適合のマークが付けられます。
- 誤った資格情報を入力してしまった場合、iDRAC のバージョンに応じて次の解決策を使用できます。
 - iDRAC バージョン 2.10.10.10 以降を搭載した第 12 世代の Dell PowerEdge サーバーを検出しているとき、ログイン時に資格情報プロファイルの誤った詳細情報を入力すると、次の動作を伴ってサーバー検出が失敗します。
 - * 初回試行の場合、サーバーの IP アドレスはブロックされません。
 - * 2 回目の試行、サーバーの IP アドレスが 30 秒間ブロックされます。
 - * 3 回目以降の試行では、サーバーの IP アドレスが 60 秒間ブロックされます。

IP アドレスのブロックが解除されたら、正しい資格情報プロファイルの詳細情報を使用してサーバー検出を再試行できます。

- 2.10.10.10 より前のバージョンの iDRAC を搭載した第 11 世代または第 12 世代の PowerEdge サーバーを検出しているとき、誤った資格情報プロファイルの詳細情報を入力してサーバー検出の試行が失敗した場合は、正しい資格情報プロファイルの詳細情報を使用してサーバーを再検出します。
- 2.10.10.10 より前のバージョンの iDRAC では、IP アドレスのブロックは設定可能です。詳細については、dell.com/support/home にある iDRAC のマニュアルを参照してください。要件に基づいて、IP

アドレスのブロックを無効にすることもできます。また、**iDRAC.IPBlocking.BlockEnable** 機能が iDRAC で有効になっているかどうかを確認することもできます。

- サーバーがデフォルトの資格情報プロファイルを使用して検出され、アプライアンスに追加された後、デフォルトの iDRAC 資格情報プロファイルを変更すると、そのサーバー上でアクティビティを一切実行できなくなります。そのサーバーで作業するには、新しい資格情報プロファイルでサーバーを再検出してください。

管理対象システムのシステム要件

管理対象システムは、アプライアンスを使用して管理されるシステムです。アプライアンスで管理対象システム（Microsoft Hyper-V ホスト、モジュラー Hyper-V ホストを含む）を検出するには、次のシステム要件に注意してください。

- 第 11、第 12、および第 13 世代の Dell PowerEdge サーバーの場合、アプライアンスはモジュラー型およびモノリシック型のサーバーモデルをサポートしています。
- ソース設定と宛先設定については、同じタイプのディスク（ソリッドステートドライブ（SSD）のみ、SAS またはシリアル ATA（SATA）ドライブのみ）を使用してください。
- ハードウェアプロファイルの RAID クローニングを正常に行うため、宛先ディスクシステムでは、ソースに存在するディスクのサイズまたは数と同じ、またはそれらを超えるサイズまたは数のディスクを使用します。
- RAID スライスされた仮想ディスクはサポートされていません。
- 共有 LOM 装備の iDRAC はサポートされていません。
- UEFI（Unified Extensible Firmware Interface）起動モードはサポートされていません。
- 外部コントローラ上の RAID 構成はサポートされていません。
- 管理対象システムで Collect System Inventory on Start（CSIOR）を有効にします。詳細については、「[管理対象システムでの CSIOR の有効化](#)」を参照してください。

管理対象システムでの CSIOR の有効化

第 12 および第 13 世代の Dell PowerEdge サーバーに対して CSIOR を有効にするには、次の手順を実行します。

1. POST 中に **F2** を押して **セットアップユーティリティ** を起動します。
2. **iDRAC 設定** を選択し、**Lifecycle Controller** をクリックします。
3. **CSIOR（再起動時のシステムインベントリの収集）** の場合は、値を **有効** に設定します。

第 11 世代の PowerEdge サーバーに対して CSIOR を有効にするには、次の手順を実行します。

1. システムを再起動します。
2. パワーオンセルフテスト（POST）中に Integrated Dell Remote Access Controller ユーティリティを起動するように求めるプロンプトが表示されたら、**CTRL + E** を押します。
3. 選択可能なオプションから **System Services** を選択し、**Enter** を押します。
4. **Collect System Inventory on Restart** を選択し、右または下矢印キーを押して **有効** に設定します。

自動検出を使用したサーバーの検出

Dell サーバーをネットワークに接続し、サーバーの電源をオンにして、DLCI アプライアンスによるサーバーの自動検出を行います。アプライアンスは iDRAC の Remote Enablement 機能を使用して、未割り当ての

Dell サーバーを自動検出します。アプライアンスはプロビジョニングサーバーとして機能し、Dell サーバーの自動検出には iDRAC 参照を使用します。
Dell サーバーでの自動検出を実行するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスで、Dell サーバー用のデバイスタイプ資格情報プロファイルを作成します (iDRAC 資格情報を指定して、それにデフォルトとしてマークを付けます)。詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。
2. 自動検出する Dell サーバーで、次の手順を実行します。
 - a. iDRAC 内の既存の管理者アカウントを無効にします。
 - b. iDRAC 設定の Remote Enablement で、自動検出を有効にします。
 - c. 自動検出を有効にした後、プロビジョニングサーバー (DLCI アプライアンス) の IP アドレスを使用してサーバーを再起動します。

手動検出を使用したサーバーの検出

サーバーは IP アドレスまたは IP 範囲を使用して手動で検出することができます。サーバーを検出するには、サーバーの iDRAC IP およびサーバーのデバイスタイプ資格情報を提供する必要があります。IP 範囲を使用してサーバーを検出する場合は、IP (IPv4) 範囲 (サブネット内) を指定します。
Dell サーバーを手動で検出するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、次のいずれかを実行します。
 - ダッシュボードで、**未割り当てのサーバーを検出** をクリックします。
 - ナビゲーションペインで、**デバイスのインベントリ** をクリックして、**インベントリ** で **検出** をクリックします。
2. **検出** で、必要なオプションを選択します。
 - **IP アドレスを使用して検出**
 - **IP 範囲を使用して検出**
3. 必要なデバイスタイプ資格情報プロファイルを選択します。
4. (オプション) 資格情報プロファイルを作成するには、**新規作成** をクリック します。
5. **IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を使用した検出** については、次のいずれかを実行します。
 - **IP アドレスを使用した検出** を選択した場合は、検出したいサーバーの IP アドレスを入力します。
 - **IP 範囲を使用した検出** を選択した場合は IP アドレス範囲を指定し、IP アドレス範囲を除外する必要がある場合は **除外範囲を有効にする** を選択して、除外する範囲を指定します。
6. **ジョブオプション** でこのジョブを追跡するにはジョブ名を指定し、ジョブを表示するには **終了後にジョブリストに移動する** を選択します。
7. **終了** をクリックします。

DLCI コンソールからのサーバーの削除

未割り当てサーバーおよびホストサーバーを次の条件に基づいて削除することができます。

- アプライアンスにリストされている未割り当てサーバーを削除できます。
- ホストサーバーが SCVMM でプロビジョニングされており、アプライアンス内に存在する場合は、先に SCVMM 内でそのサーバーを削除してから、そのサーバーをアプライアンスから削除する必要があります。

DLCI コンソールで、次の手順を実行します。

- 未割り当てサーバーを削除する場合、**Unassigned Servers**（未割り当てサーバー）でサーバーを選択して **Delete**（削除）をクリックし、確認メッセージが表示されたら **Yes**（はい）をクリックします。
- ホストサーバーを削除するには、**Host Servers**（ホストサーバー）でサーバーを選択して **Delete**（削除）をクリックし、確認メッセージが表示されたら **Yes**（はい）をクリックします。

デバイスインベントリの表示

Device Inventory（デバイスインベントリ）ページには、未割り当てサーバーとホストサーバーがリストされます。サーバーのホスト名または IP アドレスを使用して、適合ステータスやファームウェアバージョンなどのサーバー詳細を確認できます。

デバイスインベントリ ページからは、以下の操作を実行できます。

- [サーバーの検出](#)
- サーバー情報の更新
- [DLCI コンソールからのサーバーの削除](#)
- [SC2012 VMM との同期化](#)
- [同期化エラーの解決](#)
- サーバーが所属するクラスタグループとシャーシへのホストサーバーの関連付け
- [iDRAC コンソールの起動](#)

未割り当てサーバーがモジュラーサーバーの場合、そのモジュラーサーバーが収容されているシャーシのシャーシサービスタグがインベントリ詳細に追加されます。

ホストサーバーがクラスタの一部の場合、サーバーをそのクラスタグループに関連付ける、およびシャーシ情報を調べるには、クラスタ FQDN とシャーシサービスタグを参照してください。

前のバージョンのアプライアンスで検出されたサーバーを操作するには、それらのサーバーを再検出してください。

デバイスインベントリを表示するときは、次の点に注意してください。

- SC2012 VMM 用 DLCI バージョン 1.0 で第 11 世代および第 12 世代の Dell PowerEdge サーバーが検出およびインベントリされており、バージョンを 1.1 にアップグレードする場合は、検出済みのサーバーが **Device Inventory**（デバイスインベントリ）ページで非適合として表示されます。そのため、それらのサーバーを準拠状態にするには、サーバーを再検出してください。

サーバを表示するには、次の手順を実行します。

DLCI コンソールで **デバイスインベントリ** をクリックします。

SC2012 VMM との同期化

SC2012 VMM 環境内のすべての Dell Hyper-V ホスト、Hyper-V ホストクラスタ、およびモジュラー Hyper-V ホストをアプライアンスと同期するために使用します。同期化後にサーバーの最新のファームウェアインベントリを取得します。

同期化についてのメモ：

- 同期化には、サーバーのデフォルト iDRAC 資格情報プロファイルの詳細情報が使用されます。
- SC2012 VMM でホストサーバーのベースボード管理コントローラ (BMC) に iDRAC IP アドレスが設定されていない場合、ホストサーバーをアプライアンスと同期することはできません。したがって、SC2012 VMM で BMC を設定してから (詳細については、technet.microsoft.com にある MSDN 記事を参照)、アプライアンスを SC2012 VMM と同期します。
- SC2012 VMM R2 は環境内で多数のホストをサポートするため、同期化は長い時間がかかるタスクです。同期化は次のように実行されます。
 - a. SC2012 VMM 環境に登録されているホストが、アプライアンスの **Host** (ホスト) タブに追加されません。
 - b. SC2012 VMM 環境から削除されたホストサーバーが再同期されると、ホストサーバーは再同期化中にアプライアンスの **unassigned** (未割り当て) タブに移動されます。サーバーが廃止される場合は、そのサーバーを未割り当てサーバーのリストから削除します。
 - c. サーバーが未割り当てサーバーとしてリストされており、SCVMM に手動で追加されると、そのサーバーは同期化後にアプライアンスの **hosts** (ホスト) タブに追加されます。
 - d. ホストサーバーが Hyper-V クラスタに属している場合、クラスタの詳細情報をデバイスインベントリで使用できます。このホストサーバーは、クラスタアップデートグループに追加または移動されます。
 - e. ホストがモジュラーサーバーの場合、そのモジュラーサーバーが収容されているシャーシのシャーシサービスタグがデバイスインベントリ ページに追加されます。モジュラーサーバーが Hyper-V クラスタに属していない場合、そのホストサーバーはシャーシアップデートグループに追加または移動されます。
 - f. ホスト名、iDRAC IP アドレス、メモリ、クラスタメンバーシップなどのホストインベントリの詳細情報に対する変更は、いずれもデバイスインベントリでアップデートされます。
 - g. SCVMM 用 DLCI は、最新のファームウェアインベントリ情報を提供することができます。デフォルトのアップデートソースが提供されると、ファームウェアインベントリがアップデートソースと比較され、最新の情報がアップデートグループに追加されます。

SC2012 VMM 用 DLCI との同期

同期化を実行するには、次の手順を実行します。

DLCI for SC2012 VMMS (C2012 VMM 用 DLCI) で、**Device Inventory** (デバイスインベントリ) をクリックしてから **Synchronize with SCVMM** (SCVMM との同期化) をクリックします。

同期化エラーの解決

アプライアンスと同期されなかったサーバーは、iDRAC IP アドレスとホスト名と共にリストされます。

同期化エラーを解決するときには、次の点に注意してください。

- 資格情報、iDRAC、接続、またはその他の問題が原因で同期化されないサーバーの場合は、資格情報、iDRAC、接続、またはその他の問題をそれぞれ解決してから、再同期します。

サーバーを再同期するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、**Device Inventory** (デバイスインベントリ) をクリックし、**Resolve Sync Errors** (同期化エラーの解決) をクリックします。
2. 同期するサーバーを選択し、資格情報プロファイルを選択、または新しい資格情報プロファイルを作成します。
3. ジョブ名を入力し、**Go to the Job List** (ジョブリストに移動) を選択してジョブステータスを表示し、**Finish** (終了) をクリックします。

iDRAC コンソールの起動

iDRAC コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

Device Inventory (デバイスインベントリ) の **Unassigned Servers** (未割り当てサーバー) または **Hosts** (ホスト) (サーバー向け)、**iDRAC IP** をクリックします。

アプライアンスのライセンス

SC2012 VMM 用 DLCI では、エージェントフリーの設定、導入、およびファームウェアアップデート機能がライセンスされています。5 つのライセンスを評価のために追加料金なしで使用することができます。この 5 つのライセンスをダウンロードするには、marketing.dell.com/software-download-DLCISCVMM にアクセスしてください。ライセンス付与の詳細については、Dell TechCenter ウェブサイトに移動し、OpenManage Integration Suite for Microsoft System Center wiki ページにアクセスしてください。

ライセンスの詳細を表示するには、**DLCI Admin Portal – SC2012 VMM** (DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM) から **License Center** (ライセンスセンター) を起動します。

アップデート管理

Update Center を使用して、Dell アップデートの管理に関連するすべてのタスクを SCVMM 環境内で実行することができます。アップデート管理を使用することにより、デルの推奨に従った Dell サーバーコンポーネントの最新ファームウェアバージョンを維持することができます。

Update Center では、アップデートソースの表示、作成、維持を行い、サーバーグループを表示することができます。また、ファームウェアアップデート用のジョブを作成およびスケジュールすることもできます。既存のファームウェアバージョンとベースラインバージョンの比較レポートが提供され、この情報に基づいてインベントリファイルを作成することも可能です。

iDRAC アップデートは最小適合バージョン以降でしか使用できないため、アップデートを実行できるのは適合サーバー上のみです。



メモ:

- アップデート管理は、以前のバージョンのアプライアンスでは使用できません。
- アプライアンスで新機能を使用するには、前のバージョンのアプライアンスで検出されたサーバーを再検出してください。

SC2012 VMM 用 DLCI は、次のアップデート処置を提供します。

- ダウングレード - アップデートソースには使用可能な以前のバージョンが存在し、ファームウェアをこのバージョンにダウングレードできます。
- 必要な処置なし - ファームウェアバージョンはリポジトリ内のものと同レベルです。
- 使用可能なアップデートなし - コンポーネントに対して使用できるファームウェアアップデートはありません。
- アップグレード (オプション) - オプションの新機能または特定の設定アップグレードで構成されたアップデートです。
- アップグレード (緊急) - BIOS などのコンポーネントにおけるセキュリティ、パフォーマンス、または破損時補償状況を解決するために使用される重要なアップデートです。
- アップグレード (推奨) - 製品のバグ修正または機能拡張を提供するアップデートで、他のファームウェアアップデートとの互換性修正も含まれています。

SC2012 VMM 用 DLCI は、ファームウェアアップデートを実行するために次の方法を提供します。

- **DRM リポジトリを使用したアップデート** - DRM のリポジトリを準備するために、検出されたサーバーのインベントリ情報をアプライアンスからエクスポートします。
 - xml ファイルをエクスポートした後で DRM にリポジトリを作成するには、**My Repositories** (マイリポジトリ) で **New** (新規) をクリックし、その後 **Dell Modular Chassis inventory** (Dell モジュラーシャーシインベントリ) をクリックします。**Modular Chassis Inventory** (モジュラーシャーシインベントリ) で、エクスポートされた xml ファイルをアプライアンスから選択します。DRM にリポジトリを作成する方法の詳細については、*Dell Repository Manager* のマニュアルを参照してください。
 - リポジトリが作成されたら、関連するサーバーを選択して、そのサーバー上でアップデートを開始します。必要なアップデートを準備するには、テスト環境でのテスト、セキュリティアップデート、アプリケーションの推奨事項、Dell による勧告などのその他の要因を考慮してください。

- **FTPを使用したアップデート** - 任意の特定のコンポーネントに FTP サイト上で提供されている最新のアップデートを適用します。Dell IT は、年 4 回のペースでリポジトリをご用意しています。
 - Dell オンラインカタログとの統合 - Dell FTP に接続し、カタログファイルをダウンロードして、それを参照インベントリにします。
 - アップデートソースとの比較レポートを表示し、関連するサーバーまたはサーバーコンポーネントを選択して、それらのサーバー上でアップデートを開始します。
- **ファームウェアインベントリと比較の参照** - 選択したサーバーまたはサーバーグループのファームウェアインベントリが格納されている参照インベントリファイルを作成すると、後でアプライアンス内に存在するサーバーのインベントリ情報を、保存された参照インベントリファイルと比較することができます。参照サーバーインベントリファイルには、タイプまたはモデルが同じ単一サーバーからのインベントリ情報を含めたり、タイプまたはモデルが異なる複数のサーバーを含めることができます。

アップデートソース

アップデートソースを使用すると、デルのアップデートソースからアップデートを選択し、適用することが可能になります。アップデートソースは、作成、表示、および管理することができます。サポートされているアップデートソースは DRM リポジトリと FTP です。DRM またはローカル FTP アップデートソースを作成し、そのソースをデフォルトとして設定できます。

アップデートソースには、Dell アップデート (BIOS、ファームウェア、アプリケーション、ドライバ、およびドライバパック) が含まれているカタログファイルがあり、Dell Update Packages (DUP) と呼ばれる自己完結型実行可能ファイルを提供します。カタログファイルのローカルコピーは、作成時にアプライアンスにキャッシュされます。カタログファイルがアップデートソース内でアップデートされるときは、ローカルにキャッシュされているカタログファイルが自動ではアップデートされません。キャッシュに保存されているカタログファイルをアップデートするには、アップデートソースを編集するか、アップデートソースを削除して再作成します。

アップデートソースで使用可能なインベントリ情報を、選択したサーバーまたはサーバーグループのインベントリ情報と比較して、ベースラインバージョンを作成することができます。また、アップデートソースを変更して、選択したサーバーまたはサーバーグループのインベントリ情報を、選択したアップデートソースから使用できるバージョン情報と比較することもできます。

セキュリティ修正、バグ修正、および新機能の要求を活用するため、デルでは最新のファームウェアへのアップグレードを強くお勧めします。デルは、月に 1 回のペースで Dell FTP に投稿される PDK カタログによって次のアップデートを公開しています。

1. サーバー BIOS とファームウェア
2. デル認証のオペレーティングシステムドライバパック (オペレーティングシステム導入用)

事前定義されたアップデートソース

アプライアンスでは事前定義されたアップデートソースが使用可能です。事前定義されたアップデートソースの名前を削除または変更することはできません。**DELL ONLINE カタログ** はデフォルトの FTP アップデートソースです。SC2012 VMM 用 DLCI のインストール後、または新しいバージョンへのアップグレード後は、デフォルトのアップデートソース用にプロキシ詳細を追加して、保存します。

アップデートグループ

アップデートグループは、同様の管理を必要とするサーバーで構成されたグループです。選択した適合するサーバーグループに、選択したアップデートを適用することができます。

- サーバークラス上では次のアップデートを実行できます。
 - エージェントフリーのステージングされたアップデート - これは、ファームウェアアップデートのステージングです。すぐに適用可能で再起動を必要としないファームウェアはただちに適用されます。システムの再起動を必要とする残りのアップデートは、サーバーの再起動時に適用されます。アップデートは、iDRAC を使用して、スケジュールされた時刻にバッチで実行されます。バッチサイズは、アップデートが行われるときに決定されます。アプライアンスは、iDRAC からアップデートの成功が報告されるとすぐに、アップデートが成功したとみなします。ジョブが iDRAC に送信された後、アップデートのステータスはアプライアンスに記録されません。そのため、インベントリを更新して、すべてのアップデートが適用されたかどうかを確認してください。アップデートジョブは、1つのサーバーで操作が失敗するだけでも、全体が失敗となります。
 - エージェントフリーのアップデート - これは、サーバーの即時再起動を伴う帯域外アップデートです。

Update Center ページでアップデートグループを表示することができます。アップデートグループの説明と動作は次のとおりです。

- **汎用アップデートグループ**
 - すべてのアップデートグループ
 - デフォルトの未割り当てサーバーアップデートグループ
- **クラスタアップデートグループ**
- **ホストアップデートグループ**
 - デフォルトのホストアップデートグループ
- **シャーシアアップデートグループ**

汎用アップデートグループ - このグループは、単一のセッションでアップデートされるホストと未割り当てサーバーで構成されます。

すべてのアップデートグループ - このグループは、すべてのサーバークラスで構成されます。アプライアンス内に存在するすべてのグループがこのすべてのアップデートグループのメンバーになります。このグループは、汎用アップデートグループに分類されます。

デフォルトの未割り当てサーバーアップデートグループ - このグループは、他のいずれのグループにも属していないすべての未割り当てサーバーで構成されます。このグループは汎用アップデートグループに分類されます。サーバーは、次の操作の後でデフォルトの未割り当てサーバーアップデートグループに追加されません。

- ベアメタルサーバーの新規検出または再検出。
- 同期化または再同期化（SCVMM から削除された後もアプライアンス内に存在している場合）。

クラスタアップデートグループ - このグループは、Windows Server フェールオーバークラスタで構成されます。モジュラーサーバーがクラスタに属している場合、そのサーバーはクラスタアップデートグループに追加されます。第 12 世代または第 13 世代の Dell PowerEdge モジュラーサーバーがクラスタに属している場合は、Update Center ページのインベントリに CMC 情報も追加されます。

サーバーが属しているクラスタアップデートグループを調べるには、アプライアンスにリストされているすべてのサーバーのホスト名とクラスタ FQDN が表示される デバイスインベントリ ページを参照します。

ホストアップデートグループ - このグループはホストサーバーで構成され、アップデートが 1回のセッションで適用されます。つまり、1回のセッションでグループ内のすべてのサーバーが一度にアップデートされます。

デフォルトのホストアップデートグループ - このグループは、検出されたホストのうち、他のどのアップデートグループにも属していないすべてのホストで構成されます。このグループは、ホストアップデートグループに分類されます。

シャーシアップデートグループ - シャーシに属していて、どのクラスタグループにも属さないモジュラーサーバーは、シャーシアップデートグループとして分類されます。第 12 世代、または第 13 世代の Dell PowerEdge サーバーは、それらの CMC 情報と共に検出されます。デフォルトで、グループは **Chassis-Service-tag-of-Chassis-Group** の命名形式で作成されます（たとえば、Chassis-GJDC4BS-Group です）。モジュラーサーバーがクラスタアップデートグループから削除されると、サーバーはその CMC 情報と共にシャーシアップデートグループに追加されます。対応するシャーシアップデートグループにモジュラーサーバーが 1 つも存在しない場合でも、シャーシ内のすべてのモジュラーサーバーはクラスタアップデートグループ内にあるため、シャーシアップデートグループは存続しても、表示されるのは CMC 情報のみです。

アップデートグループについてのメモ

- アップデートグループを手動で作成、変更、または削除することはできません。
- アプライアンスから CMC ファームウェアを直接アップデートすることはできません。ただし、CMC 内に存在するモジュラーサーバーのファームウェアはアップデートできます。CMC ファームウェアのアップデートについては、『Dell PowerEdge M1000e Chassis Management Controller Firmware User's Guide』（Dell PowerEdge M1000e Chassis Management Controller Firmware ユーザーズガイド）の「Updating CMC firmware」（CMC ファームウェアのアップデート）を参照してください。VRTX での CMC ファームウェアのアップデートについては、『Dell Chassis Management Controller for Dell PowerEdge VRTX User's Guide』（Dell Chassis Management Controller for Dell PowerEdge VRTX ユーザーズガイド）の「Updating firmware」（ファームウェアのアップデート）を参照してください。FX2 での CMC ファームウェアのアップデートについては、『Dell Chassis Management Controller for Dell PowerEdge FX2 User's Guide』（Dell Chassis Management Controller for Dell PowerEdge FX2 ユーザーズガイド）の「Updating firmware」（ファームウェアのアップデート）を参照してください。

アップデートソースの表示

アップデートソースを表示するには、次の手順を実行します。

1. **DLCI for SC2012 VMM** (SC2012 VMM 用 DLCI) で **Update Center** をクリックします。
2. **Update Center** で **Update Settings** (アップデート設定) をクリックし、次に **Update Source** (アップデートソース) をクリックします。

ローカル FTP のセットアップ

ローカル FTP をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. ローカル FTP にオンライン FTP ftp.dell.com と全く同一のフォルダ構造を作成します。
2. オンライン FTP から **catalog.xml.gz** ファイルをダウンロードし、解凍します。
3. **catalog.xml** ファイルを開き、**baseLocation** をお使いのローカル FTP URL に変更して、そのファイルを **.gz** 拡張子で再び圧縮します。
たとえば、**baseLocation** を ftp.dell.com から ftp.yourdomain.com に変更します。
4. カタログファイルと DUP ファイルを ftp.dell.com と同じ配置になるようにローカル FTP フォルダに複製します。

アップデートソースの作成

前提条件：

- アップデートソースタイプに基づいて、Windows または FTP の資格情報プロファイルが必要です。
- DRM アップデートソースを作成する場合は、DRM がインストールされ、管理者役割が設定されていることを確認します。

アップデートソースを作成するには、次の手順を実行します。

1. **DLCI Console Add-in for SC2012 VMM** (SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン) で **Update Center** をクリックし、**Update Settings** (アップデート設定) をクリックします。
2. **Update Source** (アップデートソース) で **Create New** (新規作成) をクリックし、必要な情報を入力します。
 - FTP ソースを作成している場合は、FTP 資格情報を入力します。FTP サイトへの到達にプロキシ資格情報が必要な場合は、プロキシ資格情報も入力します。
 - DRM ソースを作成している場合は、Windows 資格情報を入力して Windows 共有の場所へのアクセスを確保し、場所フィールドにカタログファイルの完全なパスをファイル名も含めて入力します。
 - アップデートソースの作成には、32 ビットの DUP のみを使用してください。
3. (オプション) これをデフォルトのアップデートソースにするには、**Make this as default source** (デフォルトソースにする) を選択します。

アップデートソースの変更

アップデートソースを変更する際には、次の点に注意してください。

- アップデートソースの作成後、そのアップデートソースのタイプと場所を変更することはできません。
- アップデートソースは、進行中またはスケジュールされたジョブによって使用中であっても、または導入テンプレートで使用されている場合でも、変更することができます。使用中のアップデートソースを変更しているときは警告メッセージが表示されます。**Confirm** (確認) をクリックして変更を続行してください。

アップデートソースを変更するには、次の手順を実行します。

変更するアップデートソースを選択し、**Edit** (編集) をクリックして、必要に応じてソースをアップデートします。

アップデートソースの削除

次の状況でアップデートソースを削除することはできません。

- アップデートソースが事前定義されたアップデートソース **Dell Online カタログ** である場合。
- アップデートソースが導入テンプレートで使用されている場合。
- アップデートソースが進行中のジョブ、またはスケジュールされたジョブによって使用されている場合。
- アップデートソースがデフォルトアップデートソースである場合。

アップデートソースを削除するには、次の手順を実行します。

削除するアップデートソースを選択し、**Delete**（削除）をクリックします。


アップデートグループの表示

アップデートグループを表示するには、次の手順を実行します。

DLCI for SC2012 VMM（SC2012 VMM 用 DLCI）で、**Update Center** をクリックし、**Select Update Group**（アップデートグループの選択）ドロップダウンメニューからグループを選択します。

サーバー上でのアップデートの適用

ファームウェアアップデートジョブを作成することにより、サーバーまたはサーバーのグループ上で即時のアップデートを適用したり、アップデートをスケジュールすることができます。アップデート用に作成されたジョブは、**Job Viewer**（ジョブビューア）に表示されます。

 **メモ:** サーバーまたはサーバーのグループに対して適用可能なアップグレードまたはダウングレードが存在しない場合、そのサーバーまたはサーバーのグループ上でファームウェアアップデートを実行しても、何も起こりません。

必要条件:

- サーバー上でアップデートを実行するには、Dell FTP サイト、ローカル FTP サイト、または Dell Repository Manager (DRM) 上で利用可能なアップデートソースが必要です。
- アップデートを適用する前に、アップデートが適用されるサーバー上で iDRAC ジョブキューをクリアします。


ファームウェアアップデートは、サーバーの単一コンポーネント上で、または環境全体に適用できます。ただし、単一コンポーネントは FTP ソースによってのみアップデートすることができます。

サーバー上でアップデートを適用するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、**Update Center** をクリックし、サーバーまたはサーバーグループとアップデートソースを選択して、**Run Update**（アップデートの実行）をクリックします。

 **メモ:**

- コンポーネントレベルのアップデートの場合、サーバーグループをコンポーネントレベルに展開し、**Run Update**（アップデートの実行）をクリックします。
 - コンポーネントレベルの情報をアップデートしているときに、既存のファームウェアバージョンがアップデートソースのファームウェアバージョンと同じである場合は、そのコンポーネントに対する処置は何も実行されません。
 - 第 11 世代の Dell PowerEdge サーバー用のファームウェアアップデートを実行するときに、電源装置ユニット (PSU) ファームウェアバージョンをアップグレードすることはできません。
2. **Update Details**（アップデート詳細）で、ファームウェアアップデートジョブの名前と説明を入力します。
 3. **Schedule Update**（アップデートのスケジュール）で、次のいずれかを選択します。
 - **Run Now**（今すぐ実行） - アップデートを今すぐ適用します。
 - 日付と時刻を選択して、今後のファームウェアアップデートをスケジュールします。
 4. **Agent-free Update**（エージェントフリーアップデート）または **Agent-free Staged Update**（エージェントフリーステージドアップデート）を使用してアップデートするための方法を選択し、**Finish**（終了）をクリックします。


-  **メモ:** ファームウェアアップデートジョブを iDRAC に送信した後、アプライアンスは、そのジョブのステータスについて iDRAC と通信し、管理コンソールの **Jobs** (ジョブ) と **Activity Log** (アクティビティログ) でステータスアップデートを提供します。iDRAC は、アプライアンスによって追跡されているジョブに関してステータスアップデートを提供しないことがあります。アプライアンスは最大 6 時間待機し、それでも iDRAC から応答がなければ、そのファームウェアアップデートジョブのステータスは失敗と見なされます。

ファームウェア インベントリの表示と更新

サーバーまたは特定のサーバーグループを選択した後で、Dell 準拠サーバーのファームウェアインベントリを表示および更新することができます。

選択したアップデートソースに対するサーバーまたはシャードインベントリの比較レポートを表示できます。アップデートソースを変更し、選択したサーバー、サーバーグループ、またはシャードのインベントリ情報について変更後のアップデートソースとの比較レポートを表示できます。

サーバー、サーバーグループ、またはシャードのファームウェアインベントリを更新して、最新の情報を表示できます。サーバーのコンポーネント情報を更新すると、サーバー全体のインベントリ情報が更新されます。

-  **メモ:** SC2012 VMM 用 DLCI をこのバージョンにアップグレードすると、前のバージョンで検出されたサーバーに対して最新の情報が表示されません。最新のサーバー情報と正しい比較レポートを表示するには、それらのサーバーを再検出してください。

サーバーまたはサーバーグループのファームウェアインベントリを表示または更新するには、次の手順を実行します。

1. **DLCI Console Add-in for SC2012 VMM** (SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン) の **Update Center** 下で、**Select Update Group** (アップデートグループの選択) からアップデートグループを選択します。
2. (オプション) アップデートソースを変更するには、**Select Update Source** (アップデートソースの選択) からアップデートソースを選択します。
3. 現在のバージョンとベースラインバージョンのファームウェア情報、およびアプライアンスによって推奨されるアップデートアクションを表示するには、**Device Group/Servers** (デバイスグループ / サーバー) のサーバーグループをサーバーレベル、コンポーネントレベルへと順番に展開します。

 **メモ:**

コンポーネントレベルの情報を表示しているとき、第 11 世代の PowerEdge サーバーに対するネットワークインタフェースカード (NIC) 関連の情報は次のように表示されます。

- 単一の NIC カードで複数のネットワークインタフェースが使用可能な場合、**Component Information** (コンポーネント情報) リストには、それらすべてのインタフェースに対して 1 つのエントリのみが存在します。ファームウェアアップデートが適用されると、それらすべての NIC カードがアップグレードされます。
 - NIC カードが既存のカードと一緒に追加された場合、新たに追加された NIC カードは、**Component Information** (コンポーネント情報) リストに別のインスタンスとして表示されます。ファームウェアアップデートが適用されると、すべての NIC カードがアップグレードされます。
4. 更新するサーバーまたはサーバーグループを選択し、**Refresh Inventory** (インベントリの更新) をクリックします。

インベントリのエクスポート

SC2012 VMM 用 DLCI では、選択したサーバーおよびサーバーグループのインベントリを `inventory.xml` ファイルにエクスポートすることができます。この情報は、Windows 共有ディレクトリ内、または管理システム上にも保存できます。また、このインベントリファイルを DRM にインポートし、そのインベントリファイルに基づいて新しいリポジトリを作成して、参照設定を作成することも可能です。

Internet Explorer バージョン 10 以降の使用中にサーバー、またはサーバーグループのファームウェアインベントリをエクスポートするには、コンソールアドインの IP アドレスを **Local Intranet** (ローカルイントラネット) サイトに追加します。インベントリファイルをエクスポートするには、**IE Settings (IE 設定)** → **Internet Options (インターネットオプション)** → **Advanced (詳細設定)** → **Security (セキュリティ)** に移動し、**Do not save encrypted pages to disk** (暗号化されたページをディスクに保存しない) オプションの選択を外します。

サーバーのコンポーネント情報をエクスポートすると、完全なサーバーのインベントリ情報がエクスポートされます。

検出されたサーバーのインベントリをエクスポートするには、次の手順を実行します。

DLCI Console Add-in for SC2012 VMM (SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン) の **Update Center** でインベントリをエクスポートするサーバーを選択して、**Export Inventory** (インベントリのエクスポート) をクリックします。

 **メモ:** xml ファイルをエクスポートした後、DRM にリポジトリを作成するには、**My Repositories** (マイリポジトリ) で **New** (新規) をクリックし、**Dell Modular Chassis inventory** (Dell モジュラーシャーシインベントリ) をクリックします。**Modular Chassis Inventory** (モジュラーシャーシインベントリ) で、エクスポートされた xml ファイルをアプライアンスから選択します。リポジトリ作成の詳細については、dell.com/support/home で入手可能な *Dell Repository Manager* のマニュアルを参照してください。

ジョブの管理

すべてのファームウェアアップデートジョブは、それらのステータス情報と一緒にすべてここにリストされます。また、スケジュールされたファームウェアアップデートジョブをキャンセルすることもできます。

ファームウェアアップデートジョブのキャンセル

スケジュールされたファームウェアアップデートジョブをキャンセルするには、次の手順を実行します。

1. **DLCI for SC2012 VMM** (SC2012 VMM 用 DLCI) で、**Update Center** をクリックし、**Manage Jobs** (ジョブの管理) をクリックします。
2. キャンセルするジョブを選択し、それらが **Scheduled** (スケジュール済み) 状態であることを確認して、**Cancel** (キャンセル) をクリックしてから **Yes** (はい) をクリックします。

プロフィールとテンプレート

資格情報プロフィールについて

各資格情報プロフィールには、単一のユーザーアカウントのためのユーザー名とパスワードが含まれています。資格情報プロフィールにより、ユーザー資格情報の使用と管理が簡素化されます。資格情報プロフィールは、ユーザーの役割ベースの機能を認証します。アプライアンスは資格情報プロフィールを使用して管理対象システムの iDRAC に接続します。

また、資格情報プロフィールは、FTP サイトや Windows 共有で使用可能なリソースへのアクセスに使用したり、iDRAC のさまざまな機能进行操作する際に使用することができます。

資格情報プロフィールには、4 つのタイプのプロフィールを作成することができます。

- デバイス資格情報プロフィール - このプロフィールは、iDRAC または Chassis Management Controller (CMC) へのログインに使用されます。

メモ:

- デフォルトプロフィールが作成または選択されていない場合は、デフォルトの iDRAC 工場出荷時設定が使用されます。デフォルトのユーザー名には root、パスワードには calvin が使用されます。
 - * デフォルトの iDRAC プロフィールは、サーバーの検出時、または同期化の実行時にサーバーにアクセスするために使用されます。
 - デフォルトの CMC プロフィールには、ユーザー名に root、パスワードに calvin があり、モジュラーサーバーにアクセスしてシャーシに関する情報を取得するために使用されます。
 - デバイスタイプ資格情報プロフィールは、サーバーの検出、CMC へのログイン、同期化問題の解決、およびオペレーティングシステムの導入を行うために使用します。
 - SC2012 VMM 用 DLCI バージョン 1.1 にアップグレードした後は、すべての既存の資格情報プロフィールがデバイスタイプ資格情報プロフィールとして分類されます。また、前のバージョンの SC2012 VMM 用 DLCI でデフォルトプロフィールとして作成された資格情報プロフィールもデバイスタイプ資格情報プロフィールとして分類され、iDRAC にログインするためのデフォルトの資格情報プロフィールとして設定されます。
- Windows 資格情報プロフィール - このプロフィールは、DRM アップデートソースの作成中、Windows 共有へのアクセスのために使用されます。
 - FTP 資格情報プロフィール - このプロフィールは、FTP サイトへのアクセスのために使用されます。
 - プロキシサーバー資格情報 - このプロフィールは、アップデート用の FTP サイトにアクセスするためのプロキシ資格情報を提供するため使用されます。

事前定義された資格情報プロフィール

SYSTEM DEFAULT FTP (システムデフォルト FTP) アカウントは、FTP 資格情報タイプの事前定義された資格情報プロフィールで、**Username** (ユーザー名) には anonymous が設定され、**Password** (パスワード)

は空白になります。これは編集することができません。このプロファイルは、ftp.dell.com へのアクセスに使用されます。

資格情報プロファイルの作成

資格情報プロファイルを作成するときには、次の点に注意してください。

- デバイスタイプ資格情報プロファイルが作成されると、サーバーを管理するために **SC2012 VMM** で関連する **RunAsAccount** が作成され、その RunAsAccount の名前は Dell_CredentialProfileName になります。
 - (推奨) **RunAsAccount** を編集または削除しないでください。
- 資格情報プロファイルが作成されておらず、iDRAC 用のデフォルトの資格情報プロファイルがない場合、iDRAC の工場出荷時にデフォルトで設定される資格情報プロファイルが自動検出時に使用されます。デフォルトのユーザー名には **root**、パスワードには **calvin** が使用されます。

資格情報プロファイルを作成するには、以下を行います。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、次のいずれかを実行します。
 - ダッシュボードで、**資格情報プロファイルの作成** をクリックします。
 - ナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** → **資格情報プロファイル** とクリックして、**作成** をクリックします。
2. **Credential Profile** (資格情報プロファイル) で使用する資格情報プロファイルタイプを選択し、ユーザー資格情報の詳細を入力してから **Finish** (終了) をクリックします。



メモ: Device Credential Profile (デバイス資格情報プロファイル) を作成している場合、**iDRAC** を選択して iDRAC 用のデフォルトプロファイルにする、または **CMC** を選択して Chassis Management Controller (CMC) 用のデフォルトにします。このプロファイルをデフォルトプロファイルに設定しない場合は、**None** (なし) を選択します。

資格情報プロファイルの変更

資格情報プロファイルを変更するときには、次の点に注意してください。

- 一度作成されると、資格情報プロファイルのタイプを変更することはできません。ただし、他のフィールドを変更することは可能です。変更結果を確認するには、画面を更新してください。
- ハイパーバイザー導入に使用されるデバイスタイプ資格情報プロファイルを変更することはできません。

資格情報プロファイルを変更するには、以下を行います。

変更する資格情報プロファイルを選択し、**編集** をクリックして、必要に応じてプロファイルをアップデートします。

資格情報プロファイルの削除

資格情報プロファイルを削除するときには、次の点に注意してください。

- デバイスタイプ資格情報プロファイルが削除されると、関連付けられている **RunAsAccount** も SC2012 VMM から削除されます。
- SCV2012 VMM で **RunAsAccount** が削除されると、それに対応する資格情報プロファイルがそのアプライアンスで使用不可となります。

- サーバー検出で使用されている資格情報プロファイルを削除することはできません。しかし、そのような資格情報プロファイルを削除するには、検出されたサーバー情報を削除してから、資格情報プロファイルを削除します。
- 導入用に使用されているデバイスタイプ資格情報プロファイルを削除することはできません。しかし、そのような資格情報プロファイルを削除するには、SCVMM 環境に導入されたサーバーを削除してから、資格情報プロファイルを削除します。
- アップデートソースで使用されている資格情報プロファイルを削除することはできません。

資格情報プロファイルを削除するには、次の手順を実行します。


削除するプロファイルを選択し、**Delete** (削除) をクリックします。

ハードウェアプロファイルの作成

ゴールデン設定を持つサーバーを使用することによってハードウェアプロファイルを作成し、そのプロファイルを使用して、管理下システムにハードウェア構成を適用することができます。

ハードウェア構成を管理下システムに適用する前に、管理下システムが次の基準についてゴールデン設定を持つサーバーと一致していることを確認します。

- 使用できるコンポーネント
- サーバーのモデル
- RAID コントローラ
- ディスク：
 - ディスクの数
 - ディスクのサイズ
 - ディスクのタイプ

 **メモ:** SC2012 VMM 用 DLCI をバージョン 1.0 からバージョン 1.1 へアップグレードしたら、SC2012 VMM 用 DLCI バージョン 1.0 で作成したハードウェアプロファイルをサーバーに適用する前に、それらを編集および保存してください。

ハードウェアプロファイルを作成するには、以下を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインページで、次のいずれかを実行します。
 - ダッシュボードで、**ハードウェアプロファイルの作成** をクリックします。
 - ナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** → **ハードウェアプロファイル** とクリックして、**作成** をクリックします。
2. **ハードウェアプロファイル** のようこそ画面で、**次へ** をクリックします。
3. **プロファイル** で、プロファイル名と説明、および参照サーバーの iDRAC IP を入力して、**次へ** をクリックします。
参照サーバーのハードウェア詳細が収集され、必要なプロファイルとして保存されます。導入中には、このプロファイルがサーバーに適用されます。
4. **Profile Details** (プロファイル詳細) で、BIOS、起動、および RAID 設定を選択し、要件に基づいて DHS をカスタマイズしてから **Next** (次へ) をクリックします。

メモ:

ハードウェアプロファイルの作成中は、選択したプリファランスに関わらず、すべての情報が収集されます。ただし、導入中はプリファランスのみが適用されます。

たとえば、RAID 設定を選択した場合、BIOS、起動、および RAID 設定についてのすべての情報が収集されますが、導入中は、RAID 設定のみが適用されます。

5. 概要 で 終了 をクリックします。

このハードウェアプロファイルを使用して、これを必要な管理下システムに適用することができます。

ハードウェア構成プロファイルの変更

ハードウェア構成プロファイルを変更するときには、次の点に注意してください。

- BIOS 設定と起動順序を変更することができます。
- 第 11 世代および第 12 世代の PowerEdge サーバーの場合、RAID の DHS を **One** (1) または **None** (なし) に変更できます。第 13 世代の PowerEdge サーバーの場合、保持できるのはサーバーに既存の RAID 設定のみです。

ハードウェア構成プロファイルを変更するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールで、**ハードウェアプロファイル** をクリックします。
2. 編集するプロファイルを選択し、**編集** をクリックします。
3. 必要な変更を行い、**終了** をクリックします。

ハードウェアプロファイルの削除

ハードウェアプロファイルを削除するときには、次の点に注意してください。

- ハードウェアプロファイルを削除すると、このハードウェアプロファイルに関連付けられている導入テンプレートがアップデートされます。

ハードウェア構成プロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールで、**ハードウェアプロファイル** をクリックします。
2. 削除するハードウェアプロファイルを選択し、**削除** をクリックします。

ハイパーバイザープロファイルの作成

ハイパーバイザープロファイルを作成し、このプロファイルを使用して、サーバーにハイパーバイザーを導入することができます。ハイパーバイザープロファイルには、カスタマイズされた WinPE ISO (WinPE ISO はハイパーバイザー導入に使用されます)、SC2012 VMM から取得されたホストグループとホストプロファイル、およびインジェクション用の LC プロファイルが含まれています。

前提条件:

- 必要な WinPE ISO が作成済みであり、SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイの共有フォルダで使用可能になっている。WinPE イメージをアップデートするには、「[WinPE イメージアップデート](#)」を参照してください。
- SC2012 VMM で、ホストグループ、ホストプロファイル、または物理コンピュータプロファイルが作成されている。

ハイパーバイザープロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、次のいずれかを実行します。

- ダッシュボードで、**ハイパーバイザープロファイルの作成** をクリックします。
 - 左側のナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** をクリックし、**ハイパーバイザープロファイル** をクリックして、**作成** をクリックします。
2. **ハイパーバイザープロファイルウィザード** のようこそ ページで、**次へ** をクリックします。
 3. **ハイパーバイザープロファイル** で名前と説明を入力し、**次へ** をクリックします。
 4. **SC2012 VMM** 情報ページで、**SC2012 VMM ホストグループ導入先** および **SC2012 VMM ホストプロファイル/物理コンピュータプロファイル** 情報を入力します。
 5. **WinPE** ブートイメージソースで、**<Network WinPE ISO file name>.iso** 情報を入力し、**次へ** をクリックします。
 6. (オプション) **LC** ドライバインジェクションを有効にする：有効な場合は、関連ドライバがピックアップされるように、導入するオペレーティングシステムを選択します。**LC** **ドライバインジェクションの有効化** を選択し、**ハイパーバイザーバージョン** で必要なハイパーバイザーバージョンを選択します。
 7. **概要** で **終了** をクリックします。

ハイパーバイザープロファイルの変更

ハイパーバイザープロファイルを変更するときには、次の点に注意してください。

- Lifecycle Controller からのホストプロファイル、ホストグループ、およびドライバを変更することができます。
- WinPE ISO 名も変更できますが、ISO を変更することはできません。

ハイパーバイザープロファイルを変更するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインの **ハイパーバイザープロファイル** で、変更するプロファイルを選択し、**編集** をクリックします。
2. 詳細を入力し、**終了** をクリックします。

ハイパーバイザープロファイルの削除

ハイパーバイザープロファイルを削除するときには、次の点に注意してください。

- ハイパーバイザープロファイルが削除されると、そのハイパーバイザープロファイルに関連付けられている導入テンプレートも削除されます。

ハイパーバイザープロファイルを削除するには、以下を行います。

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールの **ハイパーバイザープロファイル** で削除するプロファイルを選択し、**削除** をクリックします。


WinPE のアップデート

SC2012 VMM の PXE (PreExecution Environment) サーバーは、WinPE イメージを作成するために必要です。WinPE ISO は、WinPE イメージおよび Dell OpenManage Deployment Toolkit (DTK) から作成されます。

-  **メモ:** WinPE ISO イメージの作成に最新バージョンの DTK を使用している場合は、**Dell OpenManage Deployment Toolkit for Windows** ファイルを使用します。**Dell OpenManage Deployment Toolkit for Windows** ファイルには、オペレーティングシステムを導入しているシステムに必須とされる必要なファームウェアバージョンが含まれています。最新バージョンのファイルを使用し、WinPE アップデート用の **Dell OpenManage Deployment Toolkit Windows Driver Cabinet** ファイルは使用しないでください。

WinPE ISO イメージを作成するには、次の手順を実行します。


1. アプライアンスに PXE サーバーを追加します。
2. PXE サーバーの追加後、**boot.wim** ファイルを PXE サーバーから SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ共有 WIM フォルダにコピーします。**boot.wim** は次のパス、**C:\RemoteInstall\DCMgr\Boot\Windows\Images** にあります。

 **メモ:** **boot.wim** ファイルのファイル名は変更しないでください。

DTK は自己解凍型の実行ファイルです。

DTK を使用して作業するには、次の手順を実行します。

1. DTK 実行可能ファイルをダブルクリックします。
2. DTK のドライバを抽出するには、フォルダ（例：**C:\DTK501**）を選択します。
3. 展開された DTK フォルダを統合ゲートウェイの DTK 共有フォルダにコピーします。たとえば **\\DLCI IG Share\DTK\DTK501**。

 **メモ:** SC2012 VMM SP1 から SC2012 VMM R2 にアップグレードする場合は、Windows PowerShell 4.0 アップグレードして WinPE ISO イメージを作成する必要があります。

WinPE イメージをアップデートするには、次の手順を実行します。

1. DLCI コンソールの **イメージソース** 下で **WinPE アップデート** を選択し、**カスタム WinPE イメージパス** については、WinPE イメージパス（例：**\\DLCI IG Share\WIM\boot.wim**）を入力します。
2. **DTK ドライバパス** の **DTK のパス** 下で、Dell Deployment Toolkit ドライバの場所（たとえば、**\\DLCI IG Share\DTK\DTK501**）を指定します。
3. ISO 名を入力します。
4. ジョブのリストを表示するには、**ジョブリストに移動** を選択します。
各 Windows プレイインストール環境（WinPE）アップデートに、固有のジョブ名が割り当てられています。
5. **Update**（アップデート）をクリックします。
前の手順で指定された名前の WinPE ISO は、**\\DLCI IG Share\ISO** の下に作成されます。

導入について

ハイパーバイザー導入はプロファイルベースのワークフローです。このワークフローにより、ハードウェア構成、ハイパーバイザー設定、SC2012 VMM 設定、およびファームウェアアップデート用のアップデートソースを指定できます。また、ファームウェアアップデートが失敗しても、ハイパーバイザー導入を続行することができます。ただし、選択したサーバーまたはサーバーグループのすべてのコンポーネントは、ハイパーバイザー導入中にアップデートされます。このワークフローは、SCVMM で使用可能な論理ネットワークとホストプロファイル（ハイパーバイザー導入のためのアプライアンスでのハイパーバイザープロファイルの作成時にハードウェア構成とともに必要になります）を使用します。ハイパーバイザー導入では、一対一および一対多の導入がサポートされています。


導入テンプレートの作成

必要なハードウェアとハイパーバイザープロファイル、およびアップデートソースで導入テンプレートを作成し、その導入テンプレートを未割り当てサーバーに適用することができます。これにより、テンプレートは一度だけ作成し、それを何度でも使用することができます。

導入テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスで、次の操作のいずれかを実行します。
 - アプライアンスダッシュボードで、**導入テンプレートの作成** をクリックします。
 - アプライアンスナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** をクリックしてから、**導入テンプレート** をクリックします。
2. **Deployment Template** (導入テンプレート) で、テンプレート名、テンプレートの説明を入力し、ハイパーバイザープロファイル、ハードウェアプロファイル、およびアップデートソースを選択します。
3. (オプション) アップデートソース、ハードウェアプロファイルを選択し、ファームウェアアップデートが失敗しても導入を続行するように、**Continue OSD even if firmware update fails** (ファームウェアアップデートに失敗しても OSD を続行する) を選択します。
4. (オプション) ハードウェア / ハイパーバイザープロファイルが作成されていない場合は、**Create New** (新規作成) をクリックしてプロファイルを作成します。


導入テンプレートの変更

 **メモ:** ハイパーバイザープロファイル、ハードウェアプロファイル、およびアップデートソースの名前、説明、および選択を変更することができます。

導入テンプレートを変更するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、**導入テンプレート** をクリックします。
2. 変更する導入テンプレートを選択し、**変更** をクリックします。
3. 必要な変更を行い、**終了** をクリックします。

導入テンプレートの削除

 **メモ:** 導入テンプレートを削除しても、関連付けられているハードウェアとハイパーバイザーのプロファイルには影響しません。

展開テンプレートを削除するには、以下を行います。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、**導入テンプレート** をクリックします。
2. 削除する導入テンプレートを選択し、**削除** をクリックします。


ハイパーバイザーの導入

オペレーティングシステムは、適合しているサーバーにのみ導入されます。

ハイパーバイザー導入の前に、ファームウェアバージョンを ftp.dell.com で使用可能な最新バージョンにアップグレードすることを検討してください。その後、ハイパーバイザー導入を続行します。

サーバーに導入するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスで、次の作業を実行します。
 - アプライアンスダッシュボードで、**Deploy Unassigned Servers**（未割り当てサーバーの導入）をクリックします。
 - アプライアンスナビゲーションペインで、**Deployment Wizard**（導入ウィザード）をクリックします。
2. ようこそで、**次へ** をクリックします。
3. **サーバーの選択** で、導入先となるサーバーを選択し、使用可能なライセンスをチェックしてから、**次へ** をクリックします。
4. **Select Template and Profile**（テンプレートとプロファイルの選択）で、適切な導入テンプレート、および関連するデバイスタイプ資格情報プロファイルを選択します。

 **メモ:** 複数の資格情報のプロファイルを複数のサーバーに割り当てることができます。

導入テンプレートおよび資格情報プロファイルを作成することもできます。

5. **サーバー ID** でサーバーを選択し、ホスト名、MAC アドレス、およびサーバーに適用するネットワーク情報（静的または DHCP のいずれか）を選択してから、**次へ** をクリックします。
6. **ジョブ詳細** で、ジョブを追跡するためのジョブ名、および導入状態を入力し、**次へ** をクリックします。
7. **概要** で入力した導入オプションを確認し、**終了** をクリックします。
8. **確認** メッセージで **はい** をクリックします。

アプライアンスでの情報の表示

ジョブステータスの表示

ログされたメッセージの中から特定のアップデートジョブに関するログを素早く検索して表示するには、アップデートジョブログメッセージのタイムスタンプを参照します。ジョブは、DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM と SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインから表示することができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**Jobs** (ジョブ) をクリックします。
2. フィルタ から、表示するジョブに基づいて、**Deployments** (導入)、**Firmware Update** (ファームウェアアップデート)、**Discovery Jobs** (検出ジョブ)、**WinPE Creation Jobs** (WinPE 作成ジョブ)、または **Sync Jobs** (同期化ジョブ) を選択します。

管理対象ジョブの表示

ファームウェアアップデートジョブを表示するには、次の手順を実行します。

DLCI for SC2012 VMM (SC2012 VMM 用 DLCI) で **Update Center** をクリックし、**Manage Jobs** (ジョブの管理) をクリックします。

アクティビティログの表示

アプライアンスは、アプライアンス内で発生したすべてのアクティビティに関する情報をアクティビティログに記録します。ジョブ内で何台の、およびどのサーバーが保留になっているかなど、ジョブの詳細なステータスを表示することができます。失敗したジョブに関する情報を確認するためには、アクティビティログを表示することができます。

アクティビティログを表示するには、次の手順を実行します。

1. DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM で、**アクティビティログ** をクリックします。
2. ページの表示を最新のアクティビティに更新するには、**更新** をクリックします。

アプライアンスログの表示

SC 2012 VMM 用 DLCI で実行されたアクティビティに関するログ情報が含まれているファイルのリストをウェブページで表示します。

アプライアンスログを表示するには、次の手順を実行します。

DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM で、**Settings (設定)** → **Logs (ログ)** をクリックします。



メモ: lifecyclecontrollerlogs dir の下にファームウェア アップデート LC ログを表示できます。ただし、第 11 世代の Dell PowerEdge サーバーの場合、iDRAC でのファームウェアアップデートジョブについては LC ログ内にエントリが存在しません。

トラブルシューティング

SC2012 VMM でのアカウント削除

SC2012 VMM は、**DLCI-VMM Addin Registration Profile** という名前でアプライアンスのアカウントを作成します。このプロファイルが削除されると、そのアプライアンスでの作業ができなくなります。

このアカウントは削除しないことをお勧めしますが、このアカウントが削除された場合は、アプライアンスを再インストールしてください。

比較レポートが Update Center に表示されない

64 ビット DUP を使用してアップデートソースを作成し、そのアップデートソースを比較レポートの生成に利用すると、64 ビット DUP を使用したアップデートソースの作成に対するサポートがないため、その比較レポートは Update Center で表示できません。

回避策として、アップデートソースの作成に 32 ビット DUP を使用します。

空のクラスタアップデートグループが自動検出または同期化中に削除されない

クラスタグループがアプライアンスで検出されると、クラスタアップデートグループが **Update Center** 内に作成され、すべてのサーバーがそのクラスタアップデートグループ内にリストされます。その後、SCVMM を介してすべてのサーバーをこのクラスタから削除して自動検出する、または SCVMM で同期化する場合でも、その空のクラスタアップデートグループは **Update Center** から削除されません。

回避策として、空のサーバーグループを削除するために、サーバーを再検出します。

検出ジョブが送信されない

Backspace キーを押して検出画面上のエラーメッセージを無視すると、後続の検出ジョブがバックエンド処理に送信されません。

開始策として、現在の検出画面を閉じ、インベントリ ページから検出画面を再起動します。必要な情報を入力した後、新しい検出ジョブを送信します。

重複した VRTX シャーシグループが作成される

以前別のシャーシに存在したモジュラーサーバーが VRTX シャーシに追加され、検出された場合、そのモジュラーサーバーは前のシャーシサービスタグ情報を引き続き使用し、アプライアンス内に重複する VRTX シャーシグループを作成します。

これを解決するには、次の手順を実行します。

1. モジュラーサーバーをひとつのシャーシから取り外してから、別のシャーシに追加します。詳細については、『Dell PowerEdge VRTX Enclosure Owner's Manual』（Dell PowerEdge VRTX エンクロージャオーナーズマニュアル）の「Server modules」（サーバーモジュール）の項を参照してください。
2. CMC を設定します。詳細については、dell.com/support/home から入手可能な『Chassis Management Controller Version 2.1 for Dell PowerEdge VRTX User's Guide』（Chassis Management Controller Version 2.1 for Dell PowerEdge VRTX ユーザーズガイド）の「Installing and Setting Up CMC」（CMC のインストールとセットアップ）を参照してください。

上記のタスクを実行した後で重複したシャーシグループエントリが存在する場合は、回避策として次の手順を実行します。

1. CSIOR を有効にし、新しく追加されたモジュラーサーバー上の iDRAC をリセットします。
2. VRTX シャーシグループ内のすべてのサーバーを手動で削除し、それらのサーバーを再検出します。

満杯のジョブキューによるファームウェアアップデートの失敗

アプライアンスから iDRAC に送信されたファームウェアアップデートジョブが失敗し、アプライアンスメインログに JobQueue Exceeds the size limit. Delete unwanted JobID(s) (ジョブキューがサイズ上限を超過しています。不要なジョブ ID を削除してください) というエラーが表示されます。

回避策として、iDRAC 内の完了したジョブを手動で削除し、ファームウェアアップデートジョブを再試行します。iDRAC 内のジョブを削除する方法の詳細については、dell.com/support/home にある iDRAC のマニュアルを参照してください。

システムデフォルトアップデートソースを使用した FTP への接続の失敗

セットアップと設定、またはアップグレードの完了後、システムによって作成されたアップデートソース **Dell Online カタログ** を使用して ftp サイトにアクセスすると、プロキシ資格情報が必須とされている場合にアクセスが失敗します。

Dell Online カタログ をアップデートソースとして使用して FTP サイトにアクセスするには、編集してプロキシ資格情報を追加してください。

ファームウェアアップデート中におけるリポジトリの作成の失敗

ファームウェアアップデート中におけるリポジトリの作成は、ネットワーク問題、不適切な資格情報、到達不能なサーバーなどが原因で失敗する場合があります。

解決策として、ファームウェアアップデート中に、アプライアンスがホストされている場所から FTP サーバーに到達できること、ネットワーク問題が発生していないことを確認し、正しい資格情報を入力する必要があります。

ハイパーバイザー導入の失敗

ハイパーバイザー導入が失敗し、アクティビティログに `Error New-SCVMHost failed with following error : An out of band operation (SMASH) for the BMC <IP ADDRESS> failed on IDRAC IP : <IP ADDRESS>` (エラー 新規 SCVM ホストが次のエラーで失敗しました: BMC <IP アドレス> の帯域外操作 (SMASH) が、IDRAC IP : <IP アドレス> で失敗しました) というエラーが表示される。

このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- Dell Lifecycle コントローラの状態が不良。

解決方法として、iDRAC の GUI にログインして Lifecycle Controller をリセットします。

Lifecycle Controller のリセット後、問題が解決しない場合は、次の代替手段を行います。

- アンチウイルスまたはファイアウォールにより、**WINRM** コマンドの正常実行が制限されることがあります。

問題を回避するには、次のマイクロソフトサポート技術情報の記事を参照してください。

support.microsoft.com/kb/961804

ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルを起因とするハイパーバイザー導入の失敗

ハイパーバイザー導入が失敗し、そのアクティビティログに次のエラーが表示されます。

- **Error:** Error while applying Hypervisor Profile to host <IP Address>. Failed with error : For input string: "" (エラー: ハイパーバイザープロファイルのホスト <IP アドレス> への適用中にエラーが発生しました。エラーで失敗: 入力文字列: "")
- **Information:** Successfully deleted drivers from library share sttig.tejasqa.com for <server uuid> (情報: <サーバー UUID> のライブラリ共有 sttig.tejasqa.com からドライバを正常に削除しました)
- **Error:** Deleting staging share (drivers) for <server uuid> failed. (エラー: <サーバー UUID> のステージング共有 (ドライバ) の削除に失敗しました。)

これらのエラーは、VMM コマンドレット `GET-SCJOB status` によって出力された例外と、ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルが原因で発生することがあります。再試行する、または別のハイパーバイザー導入を実行する前に、これらのファイルをライブラリ共有から削除する必要があります。

ライブラリ共有からファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM コンソールから、**Library (ライブラリ)** → **Library Servers (ライブラリサーバー)** の順に選択し、ライブラリサーバーとして追加された統合ゲートウェイサーバーを選択します。
2. ライブラリサーバーで、ライブラリ共有を選択して削除します。
3. ライブラリ共有が削除された後、`\\<Integration Gateway server>\LCDriver\` を使用して統合ゲートウェイ共有に接続します。
4. ドライバファイルの入ったフォルダを削除します。

これで、オペレーティングシステムを導入できるようになりました。

ファームウェアアップデート後も最新のインベントリ情報が表示されない

第 11 世代の Dell PowerEdge サーバー上でファームウェアアップデートジョブが完了していても、アプライアンスのインベントリには最新のファームウェアバージョンが表示されません。

アプライアンスでは、インベントリの更新がファームウェアアップデートジョブ完了直後に実行されるアクティビティです。ファームウェアアップデートは、PowerEdge サーバーの CSIOR アクティビティがまだ完了していても完了するので、以前のファームウェアインベントリ情報が表示されることとなります。

回避策として、PowerEdge サーバーで CSIOR アクティビティが完了していることを確認してから、アプライアンスでファームウェアインベントリを更新します。また、エージェントフリーのステージングされたアップデートを適用した後は、サーバーの再起動を行うようにしてください。インベントリの更新方法の詳細については、「[ファームウェアインベントリの表示と更新](#)」を参照してください。

CSIOR の詳細については、dell.com/support/home で入手可能な『Dell Lifecycle Controller GUI User's Guide』（Dell Lifecycle Controller GUI ユーザーズガイド）最新バージョンのトラブルシューティングの項を参照してください。

Active Directory へのサーバー追加中の SC2012 VMM エラー 21119

Active Directory にサーバーを追加している間、SC2012 VMM エラー 21119 が表示されます。Error 21119: The physical computer with <SMBIOS GUID> did not join Active Directory in time. The comptuer was expected to join Active Directory using the computer name <host.domain>. (エラー 210119: 物理コンピュータ <SMBIOS GUID> が時間内に Active Directory に参加しませんでした。コンピュータはコンピュータ名 <ホスト.ドメイン> で Active Directory に参加する必要があります。)

回避策として、次の手順を実行します。

1. しばらく待ってから、サーバーが Active Directory に追加されたかを確認します。
2. Active Directory にサーバーが追加されていない場合は、Active Directory にサーバーを手動で追加します。
3. SC2012 VMM にサーバーを追加します。
4. SC2012 VMM にサーバーが追加されたら、DLCI コンソールでサーバーを再検出します。
サーバーは **ホスト** タブの下に表示されます。

アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失

統合ゲートウェイがインストールされているサーバーを再起動すると、アプライアンスと統合ゲートウェイ間における接続が失われます。これは、ユーザーに対する統合ゲートウェイの実行ポリシーがアクティブになっていないことが原因です。統合ゲートウェイユーザーアカウントを使用して統合ゲートウェイサーバーにログインし、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次の手順を完了するまでは接続が回復されません。

PowerShell 実行ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

1. ローカルシステムの PowerShell 実行ポリシーを RemoteSigned に設定し、統合ゲートウェイサービスアカウントを Unrestricted に設定します。

ポリシー設定の詳細に関しては、次の MSDN 記事を参照してください。

- **PowerShell 実行ポリシー** : technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx
- **PowerShell グループポリシー** : technet.microsoft.com/library/jj149004

2. 実行ポリシーが設定されたら、統合ゲートウェイを再起動します。

Active Directory 使用時の第 11 世代 PowerEdge ブレードサーバーに対するハイパーバイザー導入の失敗

Active Directory ユーザー資格情報を使用する時に、第 11 世代の PowerEdge ブレードサーバー上でのハイパーバイザー導入に失敗します。第 11 世代 PowerEdge ブレードサーバーは、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) プロトコルを使用して通信します。ただし、Active Directory セットアップからの資格情報の使用に対しては、IPMI 規格がサポートされていません。これらのサーバー上でオペレーティングシステムを導入するための回避策として、サポートされている資格情報プロファイルを使用してください。

RAID10 での仮想ディスクの RAID 設定失敗

5 台以上の物理ディスクを使用して、コントローラ H200 用に RAID レベル 10 で仮想ディスクを作成すると、RAID 設定に失敗します。

5 台以上の物理ディスクを使用した RAID 10 は失敗します。

回避策として、その RAID レベルに必要な最小数の物理ディスクを使用します。

一部のコンポーネントで選択とは無関係にファームウェアアップデートが行われる

全く同じサーバー上にある同じコンポーネントは、それぞれのサーバー上で行われたコンポーネントの選択に関わらず、ファームウェアアップデート中にアップデートされます。この動作は、iDRAC の Enterprise ライセンスを持つ第 12 および第 13 世代の Dell PowerEdge サーバーで見られます。

回避策として、次のいずれかを行ってください。

- 同一サーバー上で無関係なアップデートが行われることを防ぐため、同一サーバー上に共通コンポーネントを適用してから、特定のコンポーネントを個々のサーバー上で別々に適用します。
- 必要なファームウェアアップデートに対応するため、停止時間が計画されているステージングされたアップデートを実行してください。

ソフトウェア RAID S130 でのホットスペアの設定に起因する RAID の設定障害

グローバルホットスペア (GHS) と DHS を含む 4 つ以上のホットスペアを RAID に設定しようとする、ソフトウェア RAID コントローラ S130 での RAID 設定に失敗します。

回避方法 :

- プロファイルに適用するホットスペア (DHS および GHS) は 3 つまでにします。
- PowerEdge RAID コントローラ (PERC) カードを使用します。

デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
 - すべての Enterprise システム管理マニュアル – [Dell.com/SoftwareSecurityManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
 - OpenManage マニュアル – [Dell.com/OpenManageManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
 - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル – [Dell.com/esmanuals](https://www.dell.com/support/manuals)
 - OpenManage Connection エンタープライズシステム管理マニュアル – [Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement](https://www.dell.com/support/manuals)
 - Serviceability Tool マニュアル – [Dell.com/ServiceabilityTools](https://www.dell.com/support/manuals)
 - OpenManage Connections クライアントシステム管理マニュアル – [Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals](https://www.dell.com/support/manuals)
- Dell サポートサイトから、
 - a. [Dell.com/Support/Home](https://www.dell.com/support/home) に移動します。
 - b. **製品の選択** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。
 - c. **ソフトウェアとセキュリティ** グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **エンタープライズシステム管理**
 - **リモートエンタープライズシステム管理**
 - **Serviceability Tools**
 - **Dell Client Command Suite**
 - **接続クライアントシステム管理**
 - d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。